

ふりがな おおつき やすひろ

氏 名 大月 康弘

1. 学歴

1985 年 3 月 一橋大学経済学部卒業
1985 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程入学
1987 年 3 月 同課程修了
1987 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程進学
1990 年 3 月 同課程単位修得退学
2005 年 11 月 一橋大学博士(経済学)号取得

2. 職歴・研究歴

1990 年 4 月 一橋大学経済学部助手(1991 年 3 月まで)
1991 年 4 月 成城大学経済学部専任講師
1994 年 4 月 成城大学経済学部助教授(1996 年 3 月まで)
1996 年 4 月 一橋大学経済学部助教授
1998 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科助教授
1998 年 4 月 パリ第一大学客員研究員(1999 年 9 月まで, 国際交流基金派遣)
2004 年 3 月 同上(2005 年 1 月まで, 文部科学省在外研究)
2006 年 4 月 一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

経済史入門, 経済史 A, 地域研究の方法, 基礎ゼミ, 基礎講義

(b) 大学院

比較経済史, ワークショップ, リサーチワークショップ

B. ゼミナール

学部前期(基礎ゼミ), 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

経済史入門では, 経済史研究の知的可能性を紹介している。19 世紀以来の経済実証研究の方法態度(分析主題・方法・概念等)を典型的に整理・紹介し, それぞれの射程と限界について考察している。経済史 A は, 「近代社会」の構造的特質を考察するために, 「前近代社会」との類型比較の観点から諸問題を論じている。地域研究の方法は, 国際経済の展開と地中海地域の地域社会変動を念頭に, 地域研究のあり方に関かわる諸議論を紹介する場として位置付けている。基礎ゼミは, 具体的な経済史研究の方法について導入的に例示することを目標とした少人数の講義である。20 世紀の国際関係史と地域研究の双方に関わる理論的・実証的論文・文献を講読し, 議論し

ている。

学部ゼミでは、ヨーロッパ・地中海世界の経済社会の形成・構造に関する英語文献を講読し、大学院ゼミでは、参加者の関心に沿った修士論文、博士論文の作成に向けた助言を与えている。いずれのゼミでも、最新の研究書・論文とともに、過去の古典的文献にも注意を向けるよう指導している。現実の政治・社会動向に規定された研究史の批判的検証を行い、自身の問題関心を彫琢してもらうためである。これらのゼミと並行して、地中海地域を研究フィールドとする学生数名を対象に、ギリシア語、ラテン語史料の講読を行っている。ワークショップおよびリサーチワークショップ(大学院)では、「経済史の方法」「地中海地域経済論」を関連諸教授と共同で開講している。

4. 主な研究テーマ

(1) ビザンツ帝国の経済社会分析

比較国制史、比較社会経済史の観点から、ビザンツ帝国の経済社会構造分析を行っている。同社会の特質を国家・社会構造比較の観点から分析し、「西欧」世界の特殊性との比較において把握しようとしている。

(2) 西洋中世世界の比較社会構造研究

「近代社会」を生んだ西洋世界の母胎としての中世世界の把握を試行している。この作業は、現行の「世界標準」としての近代的価値体系、諸制度、国家権力のあり方(国家と市場の関係を含む)を、歴史個性的に把握する上で有意な試みと考えている。

(3) 地中海文明論

「近代西欧」世界を生んだ母胎としてのキリスト教世界は、地中海を舞台として展開された。この認識に立って、イスラム世界をも含む地中海文明論を構想している。

(4) 比較経済史方法論

「近代経済社会」を分析するための学として発達した経済史は、「前近代」また非西欧世界の経済社会分析にどの程度適用可能か。この関心のもと、「市場」「産業」「国民国家」等の近代的諸規準に加えて、「互酬」「再分配」(権力機構論)等にも注目しながら経済社会分析の方法について検討している。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書

『帝国と慈善 ビザンツ』創文社、2005 年 7 月、476 頁。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* 「初期ビザンツ帝国における教会の税制特権について—テオドシウス法典の分析を中心に」『史学雑誌』第 98 編第 10 号、1989 年 10 月、1-39 頁。

* 「初期ビザンツ帝国の社会構造と慈善事業—E・パトラジアンの問題提起とその射程」『一橋論叢』第 102 巻第 6 号、1989 年 12 月、174-194 頁。

* 「ビザンツ帝国における教会寄進と国家権力—5・6 世紀の法制化をめぐって」『史学雑誌』第 101 編第 2 号、1992 年 2 月、1-42 頁。

“Donations to the Church and the State in the Byzantine Empire—Legislation in the 5th and 6th centuries—,” *Mediterranean World XIII* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 1992. 3, pp. 9-20.

「ビザンツの出現—帝国・教会・官職貴族」『創文』342 号、1993 年 4 月、21-24 頁。

「ビザンツ中後期の文書『テュピコン』をめぐって」『一橋論叢』第 110 巻第 4 号、1993 年 10 月、164-173 頁。

「11 世紀ビザンツ貴族の教会施設経営と家産政策—ミカエル・アッタレイアテスとその施設」『成城大学経済研究』123 号, 1993 年 12 月, 85-129 頁。

“Alexius Studites’ Two Documents on Reforms of Charistike,” *Mediterranean World XIV* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 1995. 3, pp. 31-39.

「アレクシオス・ストウディテスによるカリステキア改革のための 2 通の「覚え書き」」『成城大学経済研究』第 129 号, 1995 年 6 月, 71-98 頁。

「イスタンブールのギリシア人—ギリシア・トルコ関係の中の少数集団」『一橋論叢』第 116 巻第 4 号, 1996 年 10 月, 93-111 頁。

「クレモナ司教リウドブランドの「苛立ち」—『コンスタンティノーブル使節記』の背景」『社会科学古典資料センター年報』18 号, 1998 年 3 月, 14-22 頁。

「ピレンヌ・テーゼとビザンツ帝国—コンスタンティノーブル・ローマ・フランク関係の変容を中心に」岩波講座『世界歴史 7—ヨーロッパの成立—』1998 年 5 月, 213-240 頁。

「バシレイオス 2 世新法再考—10 世紀ビザンツ皇帝の財政問題と教会政策」『一橋大学研究年報 経済学研究』40, 1998 年 10 月, 183-229 頁。

「12 世紀コンスタンティノーブルの帝国病院」歴史学研究会編『講座地中海世界史第 3—ネットワークのなかの地中海』青木書店, 1999 年 5 月, 232-255 頁。

「ビザンツ帝国財政と寄進—マリアの遺産とイヴィロン修道院」『一橋論叢』第 122 巻第 4 号, 1999 年 10 月, 32-52 頁。

* 「ビザンツ社会の寄進文書—事例に見る諸特徴」『歴史学研究』737 号, 2000 年 6 月, 2-12 頁。

“Sacred Dedication in the Byzantine Imperial Finance—Maria’s bequest and Iveron monastery—,” *Mediterranean World XVI* (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 2001. 4, pp. 89-99.

「ブローデル後の地中海史研究」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 2002 年 8 月, 75-88 頁。

* 「リウトブランド 968 年ミッションの目的と齟齬—10 世紀キリスト教世界における「ローマ皇帝」問題に向けて」『西洋史研究』新輯第 31 号, 2002 年 11 月, 74-104 頁。

「10～11 世紀ビザンツ社会のカリステキア—教会施設管理の俗人委託慣行と国家権力」渡辺節夫編『ヨーロッパ中世の権力編成と展開』東京大学出版会, 2003 年 2 月, 40-75 頁。

「ビザンツ帝国租税制度覚書」文部省科学研究費補助金特定領域研究(A)「古典学の再構築」『伝承と受容(世界)班研究論文集』, 2003 年 3 月, 35-42 頁。

「歴史のなかの私たち—現代の古層・中世の革新・多層の現在」『一橋論叢』第 129 巻第 4 号, 2003 年 4 月, 54-72 頁。

「ビザンツ国家と慈善施設—皇帝・教会・市民をめぐる救貧制度」長谷部史彦編『中世環地中海圏都市の救貧』第 1 章, 慶應義塾大学出版会, 2004 年 8 月, 1-44 頁。

「ビザンツ帝国の徴税実務と修道院—イヴィロン修道院文書に見られる税の査定と特権構造」法文化学会編『法文化としての租税』国際書院, 2005 年 1 月, 9-73 頁。

“Towards the origin of “Empire”: a perspective on the study of the Byzantine State,” *Mediterranean World XVIII*, (Mediterranean Studies Group, Hitotsubashi University), 2006. 5, pp. 183-196.

「組織と〈個〉の布置—文明論の構図」『創文』493, 創文社, 2006 年 12 月, 11-15 頁。

* 「寄進と再分配の摂理—キリスト教ローマ帝国の生成」『歴史学研究』833 号, 2007 年 10 月, 2-12 頁。

“Monastic Property and the Imperial Taxation System—As Seen in Iviron Documents,” *Mediterranean World XIX*, 2008.5, pp. 263-296.

(c) 翻訳

* ミッシェル・カプラン「聖者伝資料に見られるビザンツ社会の空間と聖性」『オリエント』第 46 巻第 2 号, 2004 年 3 月, 225-244 頁。

リウトブランド『コンスタンティノープル使節記』(Liudprandi Relatio de Legatione Constantinopolitana)『ローマ皇帝称号問題と中世キリスト教世界の政治秩序に関する研究』(文部省科学研究費補助金基盤研究(C)成果報告書)所収, 2004 年 5 月, 93 頁。

ピエール・マラヴァル『皇帝ユスティニアヌス』白水社, 2005 年 1 月, 185 頁。

(d) その他

〔書評〕ピーター・ブラウン『古代末期の世界』(刀水書房刊)『社会経済史学』第 70 巻第 1 号, 2004 年 5 月, 107-110 頁。

「<自著を語る 44>『帝国と慈善 ビザンツ』」『地中海学会月報 284』(2005 年 11 月号), 7 頁。

「帝王を動かすちから—中世地中海世界に皇帝事績を追いかけて」『創文』480 号, 2005 年 10 月, 1-6 頁。

「<自由な個人>の揺籃—地中海世界から考える市民社会」『学際』(財団法人 統計研究会)2005 年 11 月, 14-22 頁。

「時空の交差点(1)共生する空間」『創文』492(創文社, 2006 年 11 月) - 「時空の交差点(24)フィロビブリ」『創文』515(創文社, 2008 年 12 月)表紙裏連載中。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

「中世キリスト教世界とローマ皇帝権—リウトブランド『使節記』に見る「帝国」の境域と「皇帝」の責務—」日本ビザンツ学会第 3 回大会, 東海大学, 2005 年 4 月 2 日

「ローマ皇帝称号問題と中世キリスト世界の秩序原則」日本西洋史学会第 56 回大会, 千葉大学, 2006 年 5 月 14 日

“Naxos: A Junction of Mediterranean Connectivity” International Workshop “Diversity and Connectivity in the Mediterranean World II” at Mena House, Cairo, Egypt, with Michiya Nishimura, August 28, 2006.

「ビザンツ帝国と慈善—現代に生きる財の再分配システムの形成」第 6 回国際シンポジウム「イスラムと IT」早稲田大学, 2006 年 11 月 25 日

「寄進と再分配の摂理—キリスト教ローマ帝国の生成」歴史学研究会全体会, 東京大学, 2007 年 6 月 2 日

(b) 国内研究プロジェクト

「地中海島嶼社会のマイクロエコロジー構造と海域研究の方法と視角」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A), 一橋大学, 2004 - 2007 年度, 研究分担者(研究代表者:坂内徳明氏)

「西洋精神史における言語の創造力と多様性」慶應義塾大学言語文化研究所, 2004 - 2005 年度, 研究分担者(研究代表者:納富信留氏, 岩波敦子氏)

「中世キリスト教世界の秩序編成原理と近代社会のモダニティ」21 世紀 COE プログラム「ヨーロッパの革新的研究拠点—衝突と和解」, 一橋大学, 2004 - 2008 年度, 事業分担者(領域代表者:山内進氏)

「中世ヨーロッパにおける権力構造とアイデンティティ複合」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 青山学院大学, 2005 - 2008 年度, 研究分担者(研究代表者:渡辺節夫氏)

「中世キリスト世界の秩序形成原理とローマ皇帝権—世界帝国の理念と現実」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C), 一橋大学, 2005 - 2007 年度, 研究代表者

「王権と都市に関する比較史的研究」国際日本文化研究センター, 2005 - 2007年度, 共同研究者(研究代表者: 今谷明氏)

「西洋と日本における国制史研究の方法的再定位—資料論・学問史の視角から」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B), 北海道大学, 2007 - 2010年度, 研究分担者(研究代表者: 田口正樹氏)

「中世地中海世界におけるローマ皇帝権の帰趨と終末論的言説」一橋大学個人研究支援経費, 2007年度, 研究代表者

「地中海島嶼社会の社会経済ネットワークと海域研究の方法と視角」文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A), 一橋大学, 2008 - 2011年度, 研究代表者

(d) 研究集会オーガナイズ

国際交流セミナー(2005年4月11日, ミッシェル・バラール氏: パリ第一大学名誉教授)

国際交流セミナー(2007年11月17日, アルフレード・ヴィッジャーノ氏: パドヴァ大学准教授)

C. 受賞

第2回地中海学会ヘレンド賞(地中海学会, 1997年)

第49回日経・経済図書文化賞(『帝国と慈善 ビザンツ』に対して, 日本経済新聞社, 2006年)

6. 学内行政

(b) 学内委員会

全学教育ワーキンググループ(2005年2月 -)

学生委員会(2005年4月 - 2007年3月)

危機管理室員(2007年4月 -)

理事補佐・評価担当(2007年9月 - 2008年11月)

次期中期目標・中期計画ワーキンググループ(2008年7月 -)

(c) 課外活動顧問

一橋大学柔道部長(2005年4月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

成城大学経済学部・非常勤講師(1996年度 -)

慶應義塾大学文学部・非常勤講師(2000 - 2004年度)

慶應義塾言語文化研究所・兼任所員(2004年度 -)

国際日本文化研究センター・共同研究員(2006年度 -)

中央大学文学部・非常勤講師(2006年度)

東京大学文学部・非常勤講師(2006 - 2007年度)

(b) 所属学会および学術活動

社会経済史学会(幹事・編集委員)

史学会

地中海学会

日本オリエント学会

歴史学研究会

(c) 公開講座・開放講座

一橋大学公開講座「紛争の地域史」(平成 17 年度春季)第 5 回(2005 年 6 月 4 日)担当

一橋大学開放講座「中世帝国から見える歴史の風景:一橋の文明史論に学んで」(2008 年 11 月 20 日, 如水会館)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

独立行政法人・日本学術振興会・特別研究員等審査会専門委員(2005 年 8 月 1 日 - 2007 年 7 月 31 日)